

特別案件等調査団報告書

(カリブ地域保健研修コース)

JICA LIBRARY



J1170501191

平成14年9月

国際協力事業団

東北支部

東北支

JR

02-9

特別案件等調査団報告書 (カリブ地域保健研修コース)

平成14年9月

国際協力事業団

JICA
614
98
BTH
LIBRARY

序 文

ジャマイカでは HIV/AIDS の問題とともに地域保健医療の改善が重要な問題であり、当事業団は 1999 年から「ジャマイカ地域保健プロジェクト」を同国南部で実施しています。

同様にカリコム諸国でも、HIV/AIDS などの感染症とともに、地域保健医療の改善（生活習慣病への対策）が大きな問題となっており、各国の保健衛生政策上、対処すべき課題となっています。しかしながら、生活習慣病に対する各国の対応は、新しい分野であることもあり必ずしも効果的であるとはいえないのが現状であります。

かかる背景のもと、当該地域カリコム諸国 13 カ国に対して、ジャマイカのプロジェクトの成果をカリブ地域全体へ広げるべく、当事業団では地域別特別設置研修コース「カリブ地域保健」を実施することとなり、同研修コースの効果的な実施のため、2002 年 6 月 30 日から 7 月 6 日までの日程で、国立弘前大学医学部 佐藤 敬教授を団長とした事前調査団を派遣しました。

本報告書は、同調査団が実施しました調査および関係各国政府等との協議結果などを取りまとめたものです。ここに本件調査にご協力いただきました関係各位に対しまして深甚なる謝意を表しますとともに、本研修コースの実施が同地域の地域保健医療水準の改善に貢献することを期待しております。

平成 14 年 9 月

国際協力事業団
東 北 支 部
支部長 雲見 昌弘

目次

序文

第1章 調査団派遣の概要

1- 1 調査団派遣の経緯と目的	1
1- 2 調査団の構成	1
1- 3 調査日程	2
1- 4 主要面談者	3

第2章 調査内容

2- 1 ジャマイカにおける調査内容	
2- 1- 1 調査 T/R と調査結果要約	5
2- 1- 2 当該国の本分野関係省庁	5
2- 1- 3 当該国の地域保健分野の現状と問題点	6
2- 1- 4 当該分野の人材育成計画とその実情	7
2- 1- 5 当該国の研修候補者の募集・選考状況／方法	7
2- 1- 6 協議事項	7
2- 2 トリニダッド・トバゴにおける調査内容	
2- 2- 1 調査 T/R と調査結果要約	8
2- 2- 2 当該国の本分野関係省庁	8
2- 2- 3 当該国の地域保健分野の現状と問題点	9
2- 2- 4 当該分野の人材育成計画とその実情	9
2- 2- 5 当該国の研修候補者の募集・選考状況／方法	10
2- 2- 6 協議事項	10

第3章 研修コース計画／内容への具体的提言・総括

3- 1 カリコム地域	
3- 1- 1 適切な対象者及び研修レベルの設定	10
3- 1- 2 カリキュラムの編成・見直し	11
3- 1- 3 他のスキームとの連携の可能性	11
3- 1- 4 調査結果の研修コースへの反映	11
写真	13

添付資料

コース概要

収集資料リスト

収集資料 (A New Vision for Caribbean Health)



1170501【9】

第1章：調査団派遣の概要

1-1 調査団派遣の経緯と目的

カリブ地域において JICA が実施している医療関連プロジェクトの協力はジェンダー・貧困対策にも関連する地域保健強化プロジェクトである。当該地域では地域保健・公衆衛生等のテーマは重要視されており、国により医療事情は異なるが、地域保健体制強化・公衆衛生のレベル向上という点では共通している。カリブ地域の保健システムを強化し人的能力を向上していく必要がある。

このような背景をもとに、地域保健に関わる人的能力の向上を図ることを目的にして、カリコム地域における地域保健の特設研修を策定することとなった。

派遣目的は以下の通りである。

- (1) 当該地域各国の関係機関・担当省庁（保健省等）を訪問し、本件研修コースの実施について周知を図り、ニーズとコースの内容に対する希望につき協議しつつ、研修を円滑かつ効果的に実施するための方途を探る。
- (2) 本コース立ち上げのため、当該地域の隣接分野プロジェクトを訪問し、関係者との協議を行うことにより、関連プロジェクトとの整合性を得る。
- (3) 現地の保健医療の状況を把握する。特に保健・衛生にかかる統計指標のうち、現地でなければ収集できないものにつき重点的に調査し、コース内容の充実を図る。

1-2 調査団の構成

- (1) 佐藤 敬：団長

弘前大学医学部 教授

Caribbean Area Advisor・Leader / Mr. Kei SATOH

Professor, Hirosaki University, School of Medicine

- (2) 大勝 恵悟：協力企画

国際協力事業団 東北支部 支部長代理

Cooperation Planning / Mr. Keigo OKATSU

Deputy Director, Tohoku Branch, Japan International Cooperation Agency (JICA)

- (3) 安田 智幸：研修計画

国際協力事業団 東北支部 職員

Planning of Training Course / Mr. Tomoyuki YASUDA

Program Officer, Tohoku Branch, Japan International Cooperation Agency (JICA)

1- 3 調査日程

日順	月日	曜日	訪問機関・面接者等	調査すべき事項・収集すべき資料
1	6/30	日	成田 18:20→マイアミ 21:24 (AA154) via シカゴ	
2	7/1	月	マイアミ 13:30→キングストン 14:18 (AA1735) ジャマイカ駐在員事務所 在ジャマイカ大使館 プロジェクト専門家と会談	調査日程確認 表敬訪問及び調査業務打ち合わせ
3	7/2	火	地域診療所 保健省 PAHO ジャマイカ駐在員事務所	プロジェクトにおける本研修の位置付け 確認 当該国の地域保健の現状調査
4	7/3	水	キングストン 12:45→ポートオブスペイン 19:00 (BW415)	
5	7/4	木	在トリニダード・トバゴ大使館 CAREC/PAHO 保健省・地域診療所	調査日程確認・表敬訪問及び調査業務打 合せ 当該国の地域保健の現状調査 当該地域の PAHO の活動調査
6	7/5	金	PAHO UNDP Caribbean Health Research Council 在トリニダード・トバゴ大使館 ポートオブスペイン 17:10→ニューヨーク 22:10 (BW415)	当該国の地域保健の現状調査 当該地域の PAHO の活動調査 報告・今後の手続き・方針に係る打合 わせ
7	7/6	土	成田	

1-4 主要面談者

ジャマイカ

在ジャマイカ日本大使館

大塚 功 特命全権大使

国際協力事業団ジャマイカ駐在員事務所

事務所長 内藤 紀雄

調整員 景山 洵

専門家 三田 禮造

Comprehensive Health Type5 Health Centre

Dr. Herb Elliot

Dr. Paula Weir

Ministry of Health

Permanent Secretary / Mrs. Grace Allen-Young

Chief Medical Officer / Dr. Barrington Wint

Human Resource & Corporate Services, Acting Director / Mr. Lloyd Maxwell

Manpower, Planning & Development Unit, Acting Director / Miss Lois Jennings

Director Co-operation in Health/Policy Analyst / Dr. Eva Lewis-Fuller

Human Resource, Management & Development, Acting Director

/ Mrs. Leurice Brown

Pan American Health Organization (PAHO)

Representative, Dr. Manuel PEÑA

トリニダッド・トバゴ

在トリニダッド・トバゴ日本大使館

高木 量 特命全権大使

高野 和行 二等書記官

専門家 青木 滋磨 (ガイアナ・カリコム事務局)

Caribbean Epidemiology Centre(CAREC)

Epidemiologist-Non-Communicable disease & injury / Dr. Laura McDougall

Epidemiologist / Dr. Eldonna Boisson

Pan America Health Organization / World Health Organization (PAHO)

Representative / Dr. Lilian RENEAU-VERNON

Advisor, Health Promotion / Dr. Gina Watson

Ministry of Health

Chief Medical Officer / Dr. Rawle EDWARDS

Deputy Director, Health Promotion / Dr. Carol-Ann SENAH

UNDP

Co-ordination & Communication Support Specialist / Joy C. BRATHWAITE

Caribbean Health Research Council

Director of Research / Dr. David PICOU

第2章 調査内容

2-1 ジャマイカにおける調査内容

2-1-1 調査 T/R と調査結果要約

弘前大学医学部が中心となって担当し、1998年から始められたジャマイカ南部地域保健強化プロジェクトの経験から、カリブ地域全体に生活習慣病を対象とした保健強化の必要性が大きいものと推定され、その対策の一環として、弘前大学医学部においてカリブ地域の地域保健担当者を対象とする研修コースを2002年10月に実施することが企画された。本調査の目的はこの地域保健研修コースについて周知を図るとともに、同地域の医療保健の現状と研修に対するニーズを明らかにするために実施された。それによって研修コース内容を検討し、同地域の要請に対してより適切に応え得るものとするのが目的である。

最初に訪れたジャマイカでは、先ずメディカル・センターを視察して地域保健の現状を把握した後に、Allen-Young 次官をはじめとする保健省高官と会見を行って、本コースの概要の説明とジャマイカ側の希望について協議した。更に Pan-American Health Organization (PAHO) のジャマイカ担当代表 Pena 医師とも会談して、研修内容についての助言を得た。この結果、本コースのコンセプトについては基本的に理解を得、研修内容を更に具体的かつ適切なものにするため重要な助言・要請が得られた。

2-1-2 当該国の本分野関係省庁

ジャマイカの保健衛生行政は保健省 (Ministry of Health) が所管している。今回の調査では、下記の保健省職員と会談・協議する機会を得た。

Mrs. Grace Allen-Young, Permanent Secretary

Dr. Barrington Wing, Chief Medical Officer

Mr. Lloyd Maxwell, Acting Director, Human Resource & Corporate Services

Miss Lois Jennings, Acting Director, Manpower, Planning and Development Unit

Dr. Eva Lewis-Fuller, Director Co-operation in Health/Policy Analyst

Mrs. Leurice Brown, Acting Director, Human Resource, Management & Development



<保健省との会談後>

特に Mrs. Allen-Young と Dr. Wing からは本研修コースの基本的概念について確認する質問があり、それに沿った内容を企画すべく提言を頂いた。Dr. Lewis-Fuller からは今後の具体的な研修内容等について情報連絡してほしい旨要請があった。

2-1-3 当該国の地域保健分野の現状と問題点

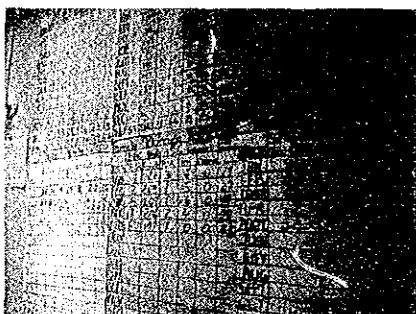
ジャマイカではタイプ1から5までの Health Centres を中心に地域保健政策の具体化が行われており、特に今回視察し得た、最も総合的機能を有するタイプ5の Health Centre では、医師、保健師、看護師、薬剤師、栄養士が配属されて、患者治療から、健康教育（特に性感染症対策）、家族計画教育、調理師教育と営業許可まで、幅広い保健業務が行われている。Health Centre は基本的にはこのような体制で運営されているが、より規模の小さい末端のタイプ1のレベルでは単に community nurse による健康指導と、必要に応じて保健師による巡回が行われている程度のものも数多く配置されている。



<Health Centre 視察>

ジャマイカにおける一般住民の健康問題として最も重要なものは性感染症特に human immunodeficiency virus (HIV) 感染症と思われ、その予防対策には大いに力が注がれているものの、HIV についての知識の普及が不十分であるとの印象はなかった。突詰めて言えば、HIV 感染症対策は有効な医学的予防法（ワクチン等）や治療法の開発が必須と考えられる。

また、上記の Health Centre では家族計画にも相当の精力が注がれており、避妊教育が盛んに行われている。しかしながら、同時に肥満や食習慣を背景とするいわゆる生活



<Health Centre の健康管理表>

習慣病も極めて高頻度で見られ、これに関する保健医療は薬物治療、患者教育を含めてよく実施されている印象を受けた。但し、このような医療の対象となっている患者の割合が全体のどの程度を占めるかについては必ずしも明らかではない。また、生活習慣病対策で最も重要かつ有効なのは、予防対策としての地域住民に対する健康教育であり、この点では今後一層充実を図っていく余地が極めて大きいと判

断される。実際、Kingston 中心部に存在するタイプ5の Health Centre においても一般住民を訪問しての健康教育が行われているが、そのほとんどは妊婦を対象とした妊娠中の健康相談や栄養指導が主なものであった。

その他、ジャマイカの健康問題として重要なものに薬物中毒があり、その対策（治療及び相談）が Health Centre における活動の大きな柱の一つとなっている。実際、Kingston に置かれている University of West Indies (UWI) 医学部における学科構成の中で、地域医療学と精神科学が単一学科になっていることにも、この問題の重要性が反映していると思われる。

2-1-4 当該分野の人材育成計画とその実情

ジャマイカは医師や看護師をはじめとするメディカル・スタッフや保健師、栄養士、薬剤師などの人材養成を十分に行う能力を有しており、それらの人材の一部はカリブ諸国全体の需要に応え得るものと思われる。しかしながら、現実に保健医療分野の人材は極めて不足しており、これらの専門的人材が海外、特に米国へと流出していることが大きな原因となっている。従って、保健強化に携わる人材も決して多くはなく、現実の人材確保を特に考慮した育成計画が実施または策定されているという情報は得られなかった。



<研修医>

但し、上述のジャマイカ南部地域保健強化プロジェクトにおいては、そのために米国から帰国したジャマイカ人医師や病院勤務から転任となった人材をジャマイカ側でも確保しており、このような事業の展開が人材育成につながっていくことは期待される。更に、このプロジェクトが始まってから医師、看護師、検査技師等のコメディカル・スタッフは当然のこと、情報処理専門家や栄養士などのトレーニングを、弘前大学を中心に毎年受け入れており、その範囲を単に同プロジェクト関連に限ることなく広めていくことは、理論的には可能である。

2-1-5 当該国の研修候補者の募集・選考状況/方法

ジャマイカからの研修候補者の募集・選考は保健省を中心に進められることになることと理解される。保健省次官等との会談を通して、その方法にまで踏み込んだ議論は持つことができなかったものの、今回の調査結果を受けて、より具体的かつ適切な研修内容の提示によって、適任者の推薦が行われると理解された。

2-1-6 協議事項

次官をはじめとして多くのジャマイカ保健省高官と協議の機会を持ち得たことは、ジャマイカ側の積極的な取組みを反映したものであり、実際に本研修コースの基本的コンセプトについて理解を得たことは有益であった。更に、研修コースのタイトルや内容に関しても貴重な助言・要請があり、このことにもジャマイカ側の積極的かつ真剣な対応が反映している。特にカリキュラムについては、カリブ諸国固有の経験や、わが国における経験、ジャマイカ南部地域におけるジャマイカと弘前大学双方の経験等を相互に提供し合うことに、より多くの時間を費やすことが重要であるとの認識を共有した。

実際にジャマイカを訪問し、一担当者とはではなくこのコースに関連する保健省全体と書いていいメンバーとの協議を実現できたことは有益であり、その結果、研修コースの

単なる説明に終わるのでなく、積極的な助言・要請を得られたことは更に貴重であった。これらの成果に対して、日本側にも前向きで誠実な対応を持って望むことが求められる。

2-2 トリニダッド・トバゴにおける調査内容

2-2-1 調査 T/R と調査結果要約

生活習慣病に関するジャマイカの現状は上述の保健強化プロジェクトの経験からある程度推定し得るものの、これをカリブ諸国全体に敷衍することの妥当性は実証されなければならない。そのため、今回の調査でカリブ諸国全体をカバーすることは不可能であるものの、ジャマイカと共に同地域の中心的存在であるトリニダッド・トバゴは調査対象国として不可欠であると考えられた。また、PAHO 等の担当者と会談することによって、トリニダッド・トバゴ以外の諸国についてもある程度の理解が得られることを目指した。



<保健省外観>

トリニダッド・トバゴ保健省を代表して Chief Medical Officer の Dr. Rawle Edwards と会談し、主に研修内容の説明をしたが、トリニダッド・トバゴ側からは生活習慣病のサーベイランス技術のカリキュラムに取入れるべく具体的な提言があった。また、PAHO 所長の Dr. Reneau-Vernon、Caribbean Epidemiology Centre (CAREC) の所長代理 Dr. McDougal 及び Dr. Boisson とも会談し、トリニダッド・トバゴとカリブ諸国の現状について説明を受けるとともに、本コースに対する助言を得た。同様に、生活習慣病のサーベイランス手法の重要性が指摘された。

また、首都 Port of Spain から約 30 km 離れた Arima Health Centre を訪れ、事務長から説明を受けて、地域における医療・保健活動の現状を視察することができた。

2-2-2 当該国の本分野関係省庁



<Dr. Rawle Edwards との会談後>

トリニダッド・トバゴの保健衛生行政は主に保健省 (Ministry of Health) が所管しているが、その他にも関連するいくつかの省庁や多様なメンバーで構成される Health Promotion Council も、特に政策決定の段階では大きな役割を果たしている。今回の調査では、保健省 Dr. Rawle Edwards (Chief Medical Officer) と会談する機会を得た。

また、保健省の政策支援組織として PAHO や Caribbean Epidemiology Centre (CAREC) 等の役割にも大きなものがあり、これらの組織の担当者とも会談し、大きな成果を得ることができた。

2-2-3 当該国の地域保健分野の現状と問題点



<Health Centre 外観>

トリニダッド・トバゴにおいてもジャマイカと同様の Health Centres が地域保健の具体的な実施機関となっている。特に、末端の小規模センターにおいても医師の定期的巡回によって医療が提供されている。トリニダッド・トバゴもジャマイカとほぼ類似した健康問題を抱えており、HIV 感染症対策、出産前・出産後保健、糖尿病を中心とした生活習慣病対策、更には青少年の妊娠対策や環境保健対策に至るまで、多様な機能をセンターが果たしている。

生活習慣病に関して特筆すべき点は、Diabetes Association に所属する NGO メンバーが Health Centre を拠点として極めて低価格で糖尿病のスクリーニング・サービスを提供し保健指導に当たっていることで、これは一般住民を対象とした、いわゆる健診活動に相当する。また、エアロビクス・インストラクターによる運動教室も一般住民を対象として Health Centre を会場に実施されている。これはトリニダッド・トバゴが取り組んでいる運動奨励による生活習慣対策の一環で、特にこの3年間毎年4月か5月を健康増進月間に指定して、総理大臣の参加によるセレモニーで開始宣言をするなど、国を挙げて取り組んでいる。但し内容は運動奨励に限られており、5 km マラソンや 10 km 歩行などのイベントが行われている。

2-2-4 当該分野の人材育成計画とその実情

トリニダッド・トバゴにも UWI 保健学部 (Faculty of Health Sciences) などが置かれており、基礎的な人材育成能力を十分備えているものの、人材流出の問題はジャマイカと同様と考えられる。



<PAHO との会談>

このような現状の中で、生活習慣病の予防に関する重要な取組みは、PAHO の Dr. Watson、Dr. Senah の協力を得て、学校教育の中に健康教育を取入れるための人材育成を開始していることである。これは特別の専門家を養成するのではなく、先ず一般の教師全員を健康教育の担い手として育成し、青少年のレベルから健康な生活習慣知識の習得を学校教育の中で実現

していくものである。現状では地域住民に対して健康意識をうえつげるところから始める必要があるとの PAHO 所属医師の意見であり、そのための対策としては有効と思われる。

また、ジャマイカ南部地域保健強化プロジェクトと同様のプロジェクトをトリニダード・トバゴでも実施したいとの意向が Dr. Edwards から表明された。これが実現すれば人材育成の面でも大きな推進力になるものと思われる。

2-2-5 当該国の研修候補者の募集・選考状況／方法

トリニダード・トバゴ保健省 Chief Medical Officer の Dr. Edwards との会談において、上記の Health Promotion Council のメンバーから一人選考したいとの具体的意向が明らかにされた。更に、可能であれば地域保健活動に携わる専門家の参加も希望しており、候補者の募集・選考は既に準備されている印象であった。

2-2-6 協議事項

トリニダード・トバゴ保健省の Dr. Edwards や PAHO 及び CAREC 担当者との協議では、カリブ諸国全体で生活習慣病をターゲットにした保健強化対策の必要性が大きいことが明らかとなり、従って、本研修コースの基本的コンセプトの妥当性が確認された。これに関しては、今回訪問し得なかった他の地域についても同様であることも確認された。また、研修カリキュラムについても生活習慣病のサーベイランス技術修得を希望する意見が寄せられ、具体的助言として貴重であった。

関連事項として、ジャマイカにおける保健強化プロジェクトと同様の支援を希望する表明が Dr. Edwards からあったことを付け加えておく。

第3章 研修コース計画／内容への具体的提言・総括

3-1 カリコム地域

3-1-1 適切な対象者及び研修レベルの設定

本コースの対象者に関しては、今回の調査の結果、当初の計画段階で推定した通り地域保健プログラムの計画・実施担当者が相応しいと確認された。大学卒業を条件とすることに一部から懸念が表明され、そのことに厳格にこだわるものでないことを伝えた。カリブ海諸国の医療・保健担当者の教育レベルは極めて高いことも事実であり、大学卒という規定に余り問題はないと思われるが、個々の応募者の適否決定に際しては、この条件に必ずしもとらわれることはないと考えられる。

研修レベルについては、生活習慣病の予防を目的とした研修が従来ほとんど行われていないことを考慮すると、対象者の教育・知識レベルと合致させるよりは、むしろ基本

的なレベル設定が妥当であると思われた。

3-1-2 カリキュラムの編成・見直し

本研修コースは新しい試みであり、当初のカリキュラムが実態に合ったものか否かについては流動的であったと言わざるを得ない。実際に、今回の事前調査の意義はその点にあったことも事実である。

今回の調査の結果、当初の基本的コンセプトを訂正し見直す必要はないと結論された。カリキュラムの具体的見直しとしては以下の3点が重要と結論された。第一に、このような試みが少なくともカリブ海諸国にとっては新しいものであることから、各国の現状紹介と実態把握の機会を多く設けることが重要である。第二には、健康な生活習慣に対する地域住民の意識形成のために ICE (Information, Communication and Education) に沿ったカリキュラムを多く取入れること、また第三には、プログラムの点検評価の手法を研修に取入れることが重要と結論された。

3-1-3 他のスキームとの連携の可能性

現在弘前大学医学部が担当している南部地域保健強化プロジェクトは、2003年5月をもって一応の終了を迎えるが、5年間に亘ったこのプロジェクトによって導入された、生活習慣病予防のための住民教育と健診のシステムを南部地域に限定せず、ジャマイカ全体に拡大し継続・発展させることが極めて重要であることは言を待たない。それに止まらず、今回の研修コースの少なくとも一部は、ジャマイカにおけるプロジェクトの一環として実施することが可能であり、それによる利点も多いと考えられる。このことは、現在のプロジェクトの継続性 (sustainability) を支援することにもつながると期待でき、カリブ諸国の JICA 研修センターがジャマイカに誕生することになる。将来もし、トリニダード・トバゴでもジャマイカと同様のプロジェクトが導入されるならば、カリブ諸国全体の研修センターとしての役割も当初から考慮することを是非提言したい。

3-1-4 調査結果の研修コースへの反映

今回の事前調査の結果、コースカリキュラムにジャマイカ南部地域保健プロジェクトの概要と成果の説明を含めていることを強調し、現地のニーズでもある生活習慣病の対策としての戦略や日本の取り組みを紹介する。

また、応募者の資格条件に「地域ベースで健康促進活動に従事している人」を追加して、応募条件を明確化した。

研修スケジュール(案)
CARIBBEAN AREA PUBLIC HEALTH

月	日	曜日	研修予定(仮)	備考
10	1	火	来日	
	2	水	ブリーフィング	JICA
	3	木	ジェネラルオリエンテーション	
	4	金	ジェネラルオリエンテーション	
	5	土	休日	
	6	日	移動(東京-弘前)	
	7	月	プログラムオリエンテーション 日本における地域保健医療概要 カントリーレポート発表	
	8	火	JICA ジャマイカ南部プロジェクトについて	弘前大学
	9	水	日本における地域医療方針 保健所における健康診断 地域保健の社会認識・調査の戦略について モニタリングと評価について 視察	弘前大学 弘前保健所 青森健康管理センター
	10	木	青森健康管理センター移動検診視察 移動(弘前-仙台)	野辺地町(酪農青森農業協同組合)
	11	金	青葉区保健福祉センター 仙台保健福祉事務所塩釜総合支所	JICA 東北支部
	12	土	休日	
	13	日	休日	
	14	月	祝日(体育の日) 移動(仙台-弘前)	
	15	火	弘前国際フォーラム	弘前大学
	16	水	弘前国際フォーラム	弘前大学
	17	木	評価会・閉講式	弘前大学 JICA 東北支部
	18	金	移動(弘前-東京)	
	19	土	帰国	



<カリブ調査団>

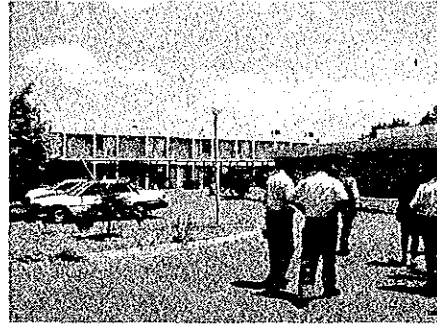
ジャマイカ滞在先ホテルにて撮影

ジャマイカ



<大使表敬>

大塚大使を大使館に表敬。



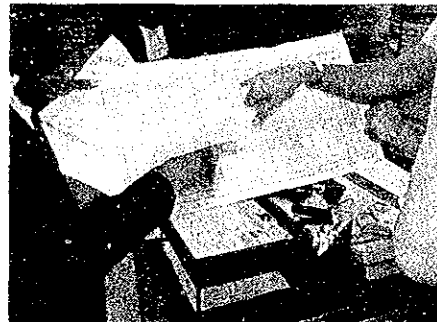
<ジャマイカ診療所視察風景>

敷地は広い。外にも診察を待つ患者がいた。



<ジャマイカ診療所視察風景>

ジャマイカ南部地域プロジェクトの三田専門家



<診療記録表>

診察資料は一応整理されていた。



<ジャマイカ PAHO 代表との会談>

保健省の中にある PAHO の事務所



<ジャマイカ保健省>

危険地帯にある保健省の建物

トリニダッド・トバゴ



<大使表敬>

高木大使、カリコム事務局青木専門家と調査団



< CAREC 会談前 >

CAREC 代表の Dr.Laura と会議先のホテルにて
会談



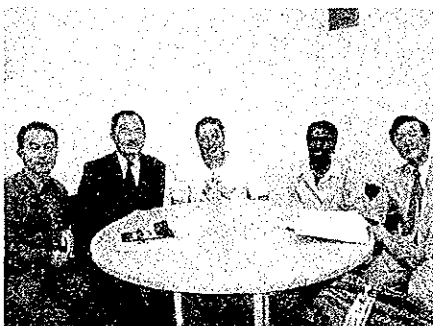
< PAHO >

トリニダッド・トバゴを管轄している現地 PAHO



< PAHO 代表会談後 >

Lilian Reneau-VERON 代表と会談。その後アド
バイザーを紹介していただいた。



< PAHO 会談後 >

アドバイザーDr.Gina WATSON と保健省の
事務官が同席した。



< PAHO 外観 >

外見は普通の家であるがセキュリティはしっか
りしていた。



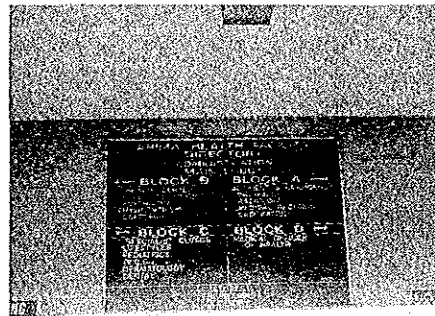
<トリニダッド・トバゴ保健省>
町の中心部にある保健省



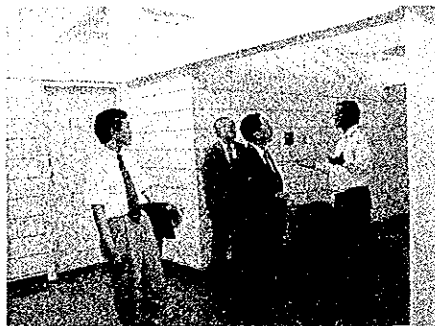
<保健省内のポスター等>
健康促進を進めるポスターが省内にあった



<ARMA Health Centre>
ポートオブスペインから車で40分ほどのところにある。



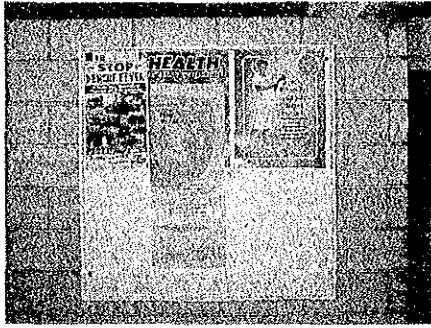
<入り口のセンター案内>
治療施設・医療教育施設・歯科施設も含め4つの
区画に分かれている。



<センター内会談>
センターは時間外であったにもかかわらず熱心に
説明していただいた。

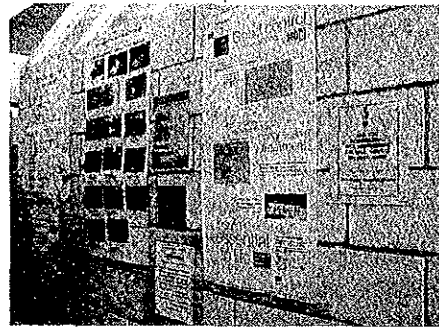


<デング熱予防のポスター>
デング熱は中米・カリブ地域では大きな問題



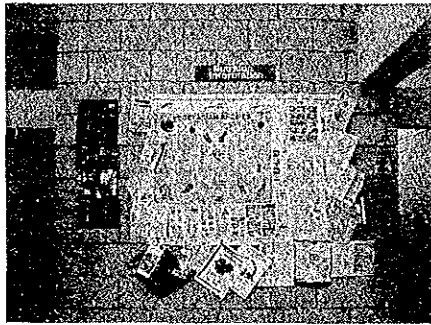
<HIV に関するポスター>

HIV の母子感染について訴えている。



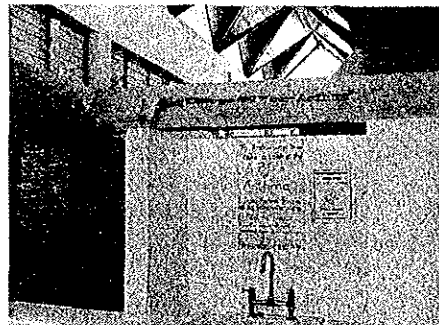
<インシュリンについてのポスター>

当地の生活習慣病の現状がわかる。



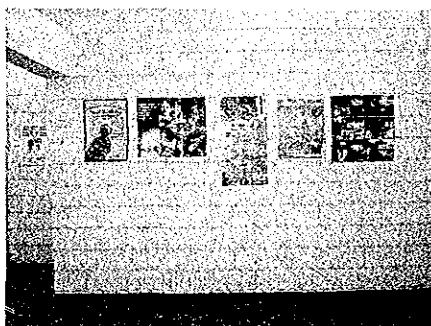
<栄養に関する掲示板>

野菜料理のレシピや食物の写真が並ぶ。



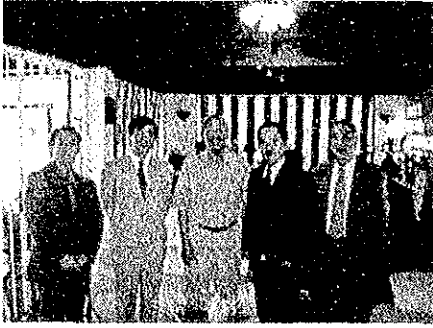
<ぜんそくに関するポスター>

ぜんそくの原因と感染防止に関する情報



<健康に関するポスター>

HIV や結核などについてのポスター



<CHRC との会談後>

CHRC の代表 Dr. David Picou (中央) と青木専門家



<UNDP 会談後>

Ms. Joy BRATHWAITE と調査団